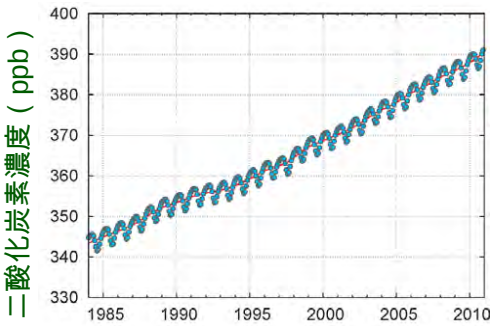
✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧

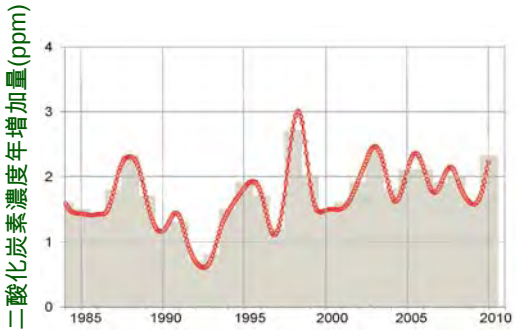
✧　温室効果ガス年報（Greenhouse Gas Bulletin）第７号発行

大気中の温室効果ガス観測データについて、気象庁が世界の専門家と協力して解析した結果、2010 年の二酸化炭素、メタンおよび一酸化二窒素の世界平均濃度は過去最高であることが判明しました。

気象庁は、世界気象機関（WMO）の温室効果ガス世界資料センター（World Data Centre for Greenhouse Gases: WDCGG）を運営しており、世界中の温室効果ガス観測データを収集・解析しています。2010 年 12 月までの世界の温室効果ガス観測データについて、気象庁が世界の温室効果ガス専門家と協力して解析し、結果を取りまとめ、WMO より 11 月 21 日に温室効果ガス年報（Greenhouse Gas Bulletin）第７号として発表されました。

今回の解析結果によると、大気中の主要な温室効果ガスである二酸化炭素（CO2）、メタン（CH4）及び一酸化二窒素（N2O）の 2010 年における世界平均濃度は、過去最高値を記録したことが分かりました。このうち 2009 年から 2010 年にかけての二酸化炭素と一酸化二窒素の濃度増加量は、ともにその前の年の値を上回り、さらに、最近 10 年間で平均した年間の増加量と比べても上回っています。また、メタンの濃度も４年間連続で増加しています。





（気象庁ホームページから）